

平戸

令和5年6月30日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町542番地
TEL 045-821-2329
FAX 045-826-2005



学校HP、
校長室だよりが
更新されています。
ぜひご覧ください。
閲覧数 6/29 現在
68458人

夏休みこそ『リアルな体験』を

副校長 鴨野 幸規

向暑の候、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

先日、本校に着任して初めて、5年生三浦宿泊体験学習に引率として参加しました。「思い切り楽しんで、最高の思い出を作りたい。」という5年生児童の思いが通じたのか、二日間天候に恵まれ、予定していた行程を全て実施することができました。三浦の大自然をステージに、『リアルな体験』に取り組む5年生の姿が、とても素敵で印象に残りました。



約三年間に渡るコロナ禍での学校生活、事態の深刻化とともに校外に出かける機会が減っていき、同時にICTを活用した学習活動が日常的なものになりました。今では、多くの子ども達はタブレットを使用して、インターネットから動画や静止画を含む様々な情報を得て、教室に居ながらにして『非リアルな体験』をすることができます。例えば、社会科の工場見学を動画で視聴したり、タイムラプス撮影された植物の成長の様子を視聴したりすることも可能になりました。さらに、必要であれば、それらを何度でも繰り返し視聴することができます。

確かに、時間や労力をかけて実際に出かけることをしないでも、離れた場所で視覚的な体験をすることができるという点では、とても手軽で便利です。時間に限りがある学校の授業においても『非リアルな体験』のもつ可能性は非常に大きいでしょう。そのような意味においては、時代による前向きな学習方法の変化として、今後より一層、学校教育の中に定着していくと考えられます。

さて、7月は待ちに待った38日間の長い夏休みを迎えます。本校では、昨年度より夏休みの課題を見直しました。今年度も各学年で検討した復習課題と自由課題を中心に、時間的にも精神的にも大きな負担にならない程度の課題を出す予定です。夏休みは、身近な生活の中にも『リアルな体験』があふれています。「あさがおの水やり」、「お風呂そうじ」、「星空をみる」、「虫とりをする」、「散歩をする」、そんなことも全てが『リアルな体験』です。お子様と日々の過ごし方について相談していただき、夏休みにしかできない『リアルな体験』が一つでも多くできるといいと思います。



大切なのは、『リアルな体験』と『非リアルな体験』のバランスを上手にとること、使い分けがしっかりできることかもしれません。様々な体験を通して、一回り成長した子ども達に会うことを楽しみにしています。